

第2回 「困難な問題を抱える女性への支援について」

1 調査目的

令和9年3月に策定する「栃木県 困難な問題を抱える女性(※)への支援のための施策の実施に関する基本的な計画」の参考とする。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c07/system/honchou/honchou/danjokyoudousankakugyouseijouhou.html>

※「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性及びその他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性(そのおそれのある女性を含む)をいいます。

(担当課:生活文化スポーツ部 人権男女共同参画課)

2 調査概要

(1) 調査対象者

706名 (とちぎネットアンケート協力者)

(2) 調査期間

令和8(2026)年5月12日～5月25日

(3) 調査方法

電子メールにより周知・回答依頼。MicrosoftFormsにより回答

3 回答者属性

回答数 433名 (回答率61.3%)

(1) 男女別内訳

性別	回答者数	構成比
男性	166	38.3 %
女性	262	60.5 %
未回答	5	1.2 %
計	433	

(2) 年代別内訳

年代	回答者数	構成比
10代	0	0.0 %
20代	11	2.5 %
30代	24	5.5 %
40代	116	26.8 %
50代	118	27.3 %
60代	102	23.6 %
70代以上	62	14.3 %
計	433	

(3) 地域別内訳

地域	回答者数	構成比
県央	213	49.2 %
県南	128	29.6 %
県北	92	21.2 %
計	433	

(注)

(1) 調査結果に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

(2) 割合を百分率(%)で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示。四捨五入の結果、合計が100%にならないことがあります。

(3) 図表中の語句は、表記を短縮・簡略化している場合があります。

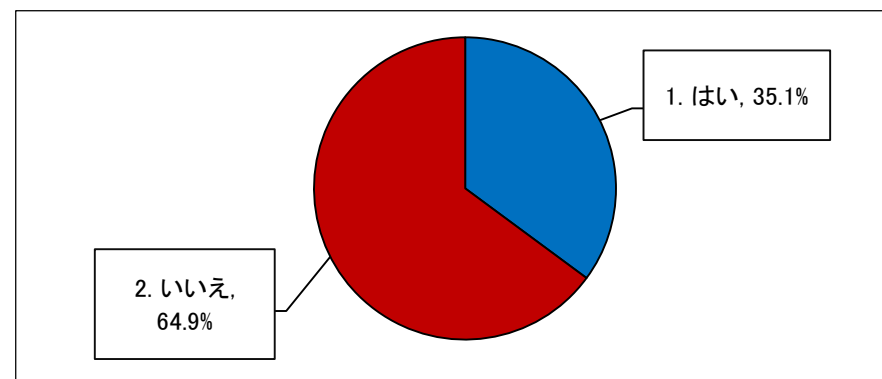
4 調査結果

問1 あなたは、困難な問題を抱える女性の支援相談窓口として以下の相談機関(窓口)を知っていますか。
 ※「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性及びその他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性(そのおそれのある女性を含む)をいいます。

(1つ回答)

	構成比	回答数
1 はい	35.1%	152
2 いいえ	64.9%	281

(n = 433)

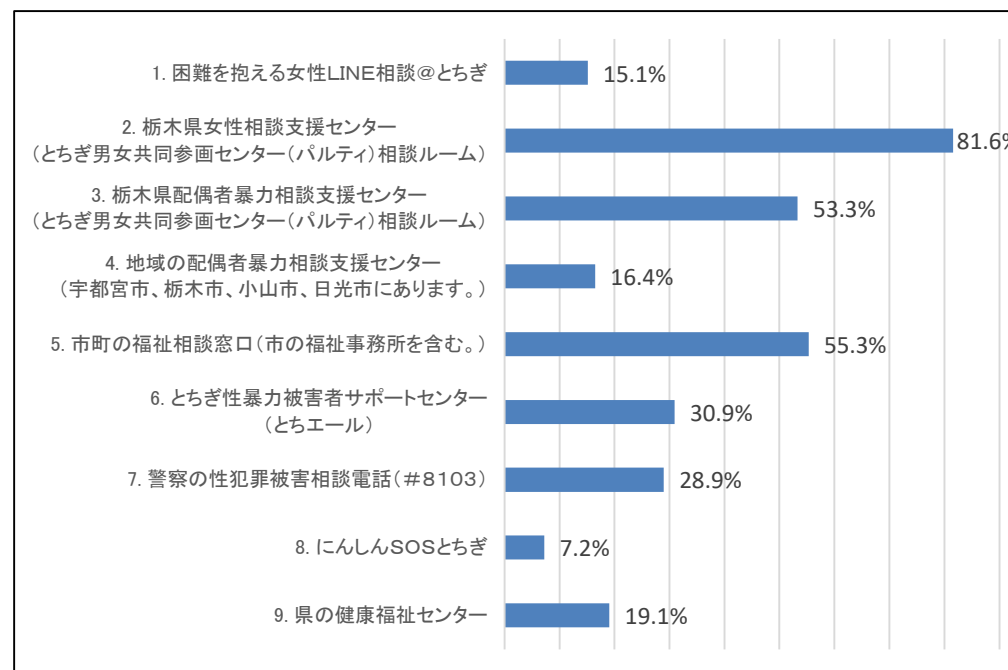


問2 (問1で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)
 あなたが知っている相談機関(窓口)は何ですか。
 次の中からいくつでも選んでください。

(複数回答可)

	構成比	回答数
1 困難を抱える女性LINE相談@とちぎ	15.1%	23
2 栃木県女性相談支援センター (とちぎ男女共同参画センター(パルティ)相談ルーム)	81.6%	124
3 栃木県配偶者暴力相談支援センター (とちぎ男女共同参画センター(パルティ)相談ルーム)	53.3%	81
4 地域の配偶者暴力相談支援センター (宇都宮市、栃木市、小山市、日光市にあります。)	16.4%	25
5 市町の福祉相談窓口(市の福祉事務所を含む。)	55.3%	84
6 とちぎ性暴力被害者サポートセンター (とちエール)	30.9%	47
7 警察の性犯罪被害相談電話(#8103)	28.9%	44
8 にんしんSOSとちぎ	7.2%	11
9 県の健康福祉センター	19.1%	29

(n = 152)

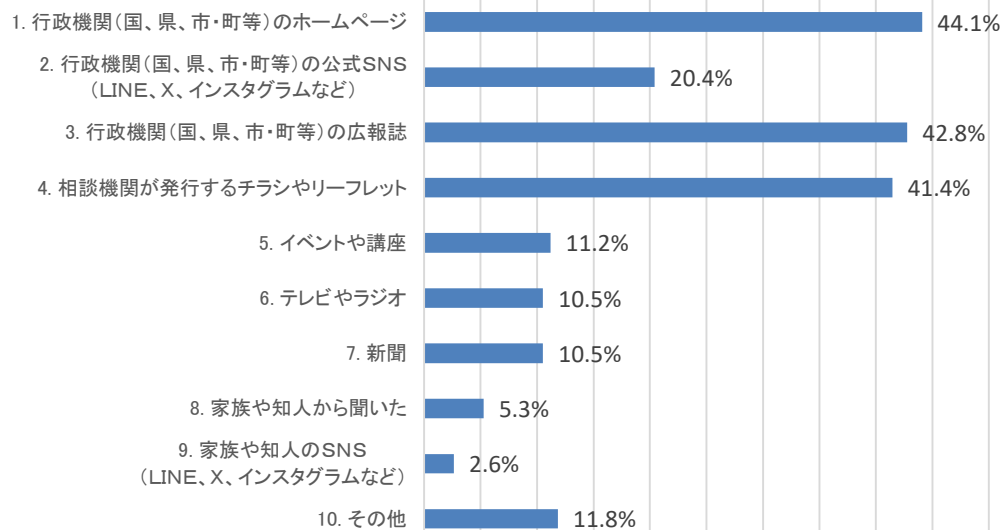


問3 (問1で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)
 あなたが相談機関(窓口)を知ったきっかけは何ですか。
 次の中からいくつでも選んでください。

(複数回答可)

	構成比	回答数
1 行政機関(国、県、市・町等)のホームページ	44.1%	67
2 行政機関(国、県、市・町等)の公式SNS (LINE、X、インスタグラムなど)	20.4%	31
3 行政機関(国、県、市・町等)の広報誌	42.8%	65
4 相談機関が発行するチラシやリーフレット	41.4%	63
5 イベントや講座	11.2%	17
6 テレビやラジオ	10.5%	16
7 新聞	10.5%	16
8 家族や知人から聞いた	5.3%	8
9 家族や知人のSNS (LINE、X、インスタグラムなど)	2.6%	4
10 その他	11.8%	18

(n = 152)



【その他の主な意見】

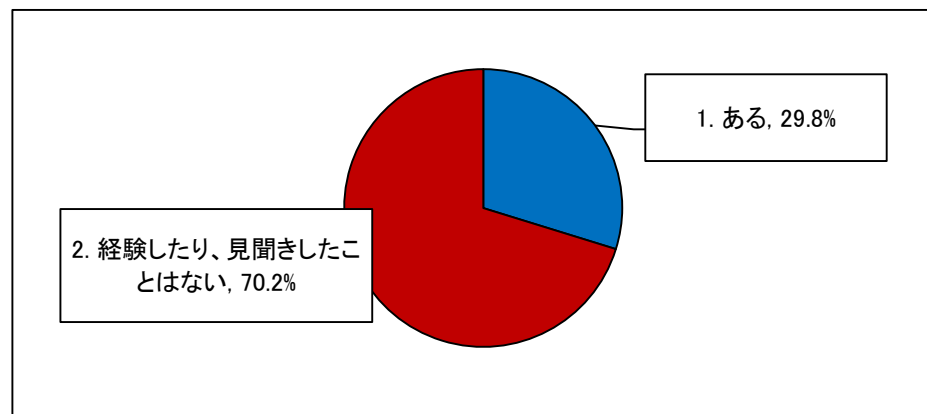
- ・ 困難を抱える女性のための相談先での電話で紹介を受けた。
- ・ インターネットで自分で調べた。
- ・ 公共施設のトイレに貼ってあった。

問4 あなた自身もしくは身近な女性で、女性であることを理由として、困難な問題を体験したり、見聞きしたことがありますか。

(1つ回答)

	構成比	回答数
1 ある	29.8%	129
2 体験したり、見聞きしたことはない	70.2%	304

(n = 433)



問5 (問4で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)
 あなた自身もしくは身近な女性が経験・見聞きした困難な問題はどのようなものですか。
 次の中からいくつでも選んでください。

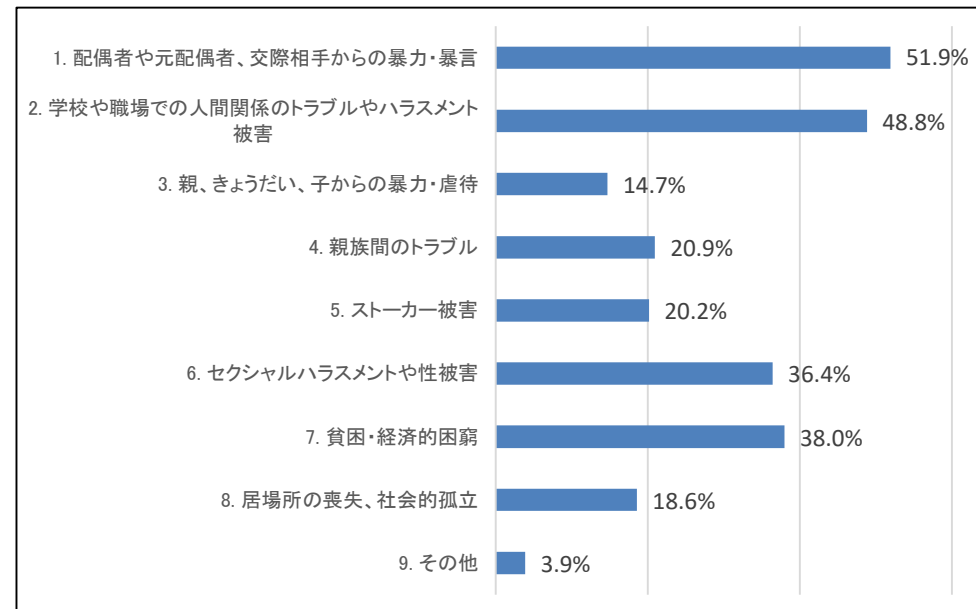
(複数回答可)

	構成比	回答数
1 配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言	51.9%	67
2 学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害	48.8%	63
3 親、きょうだい、子からの暴力・虐待	14.7%	19
4 親族間のトラブル	20.9%	27
5 ストーカー被害	20.2%	26
6 セクシャルハラスメントや性被害	36.4%	47
7 貧困・経済的困窮	38.0%	49
8 居場所の喪失、社会的孤立	18.6%	24
9 その他	3.9%	5

(n = 129)

【その他の主な意見】

- ・ 親からのハラスメント。
- ・ 職場での男女格差。
- ・ 養育費未払いや、義両親から介護を強制される(職場を辞めさせられる、暴言暴力を受ける。)



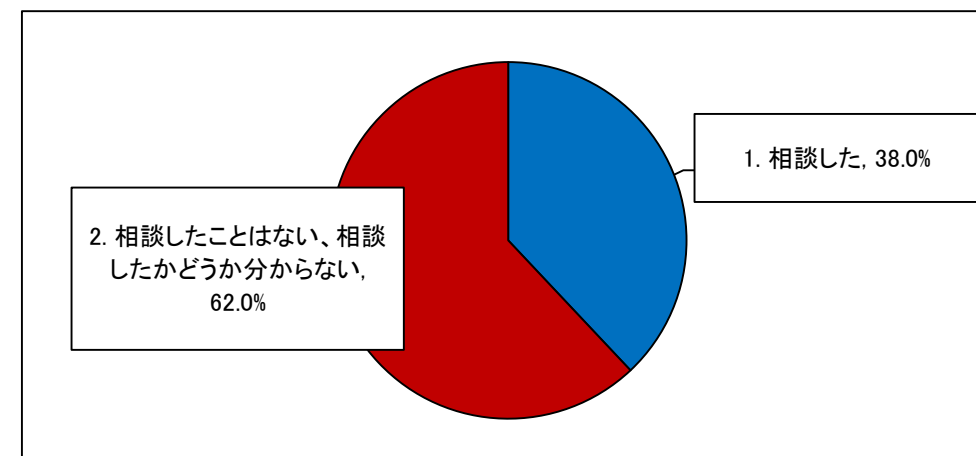
問6 (問4で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)

困難な問題を体験した時、あなたは(あなたの身近な女性は)、誰かに相談しましたか。

(1つ回答)

	構成比	回答数
1 相談した	38.0%	49
2 相談したことはない、相談したかどうか分からない	62.0%	80

(n = 129)

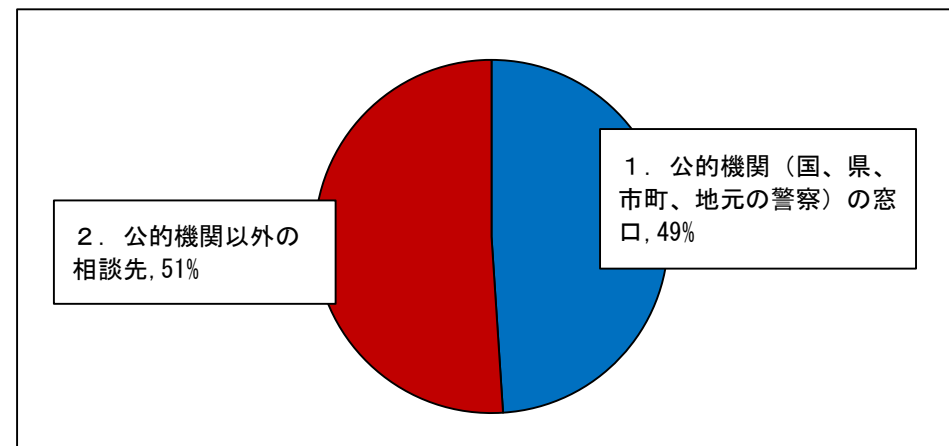


問7 (問6で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)
 そのとき相談した窓口はどこですか。

(1つ回答)

	構成比	回答数
1 公的機関（国、県、市町、地元の警察）の窓口	49.0%	24
2 公的機関以外の相談先	51.0%	25

(n = 49)

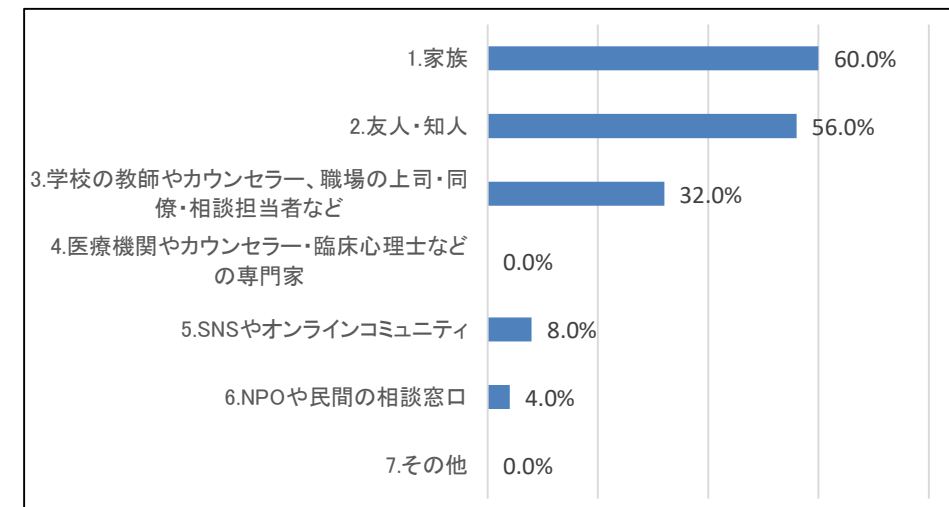


問8 (問7で選択肢2を選んだ方にお聞きします。)
 相談した公的機関以外の相談窓口は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

(複数回答可)

	構成比	回答数
1 家族	60.0%	15
2 友人・知人	56.0%	14
3 学校の教師やカウンセラー、職場の上司・同僚・相談担当者など	32.0%	8
4 医療機関やカウンセラー・臨床心理士などの専門家	0.0%	0
5 SNSやオンラインコミュニティ	8.0%	2
6 NPOや民間の相談窓口	4.0%	1
7 その他	0.0%	0

(n = 25)



問9 (問7で選択肢2を選んだ方にお聞きします。)
 公的機関の相談窓口を利用しなかったのはどうしてですか。
 次の中から1つだけ選んでください。

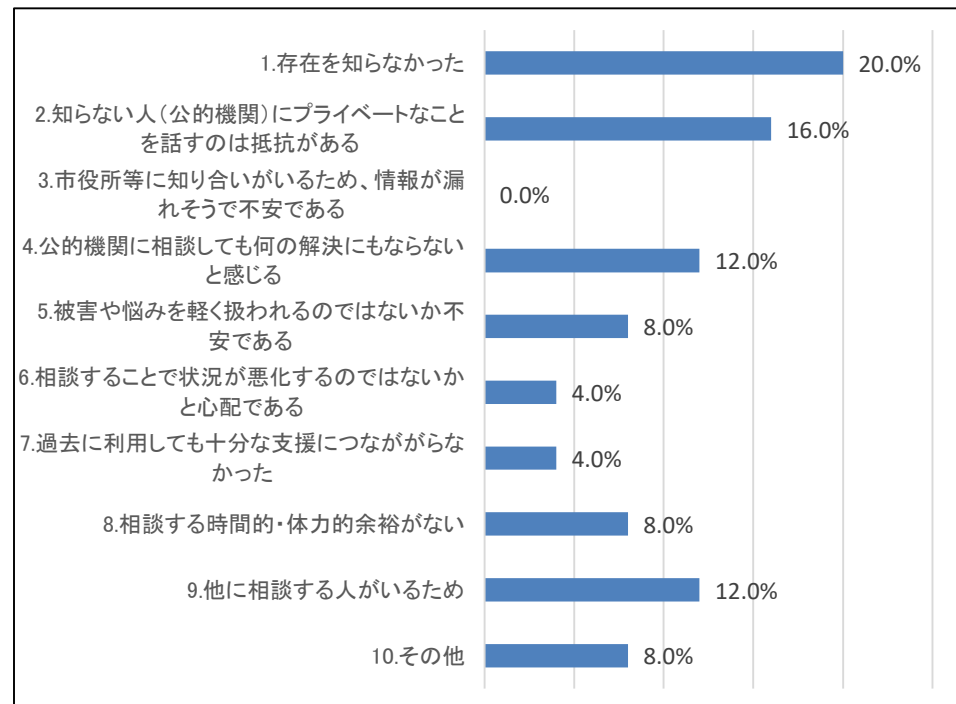
(1つ回答)

	構成比	回答数
1 存在を知らなかった	20.0%	5
2 知らない人(公的機関)にプライベートなことを話すのは抵抗がある	16.0%	4
3 市役所等に知り合いがいるため、情報が漏れそうで不安である	0.0%	0
4 公的機関に相談しても何の解決にもならないと感じる	12.0%	3
5 被害や悩みを軽く扱われるのではないかと不安である	8.0%	2
6 相談することで状況が悪化するのではないかと心配である	4.0%	1
7 過去に利用しても十分な支援につながらなかった	4.0%	1
8 相談する時間的・体力的余裕がない	8.0%	2
9 他に相談する人がいるため	12.0%	3
10 その他	8.0%	2

(n = 25)

【その他】

- ・ 勤務先の学校の生徒の件で、上司に報告・相談すれば解決できるはずと信じたため。



問10 (問6で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)
 あなた(あなたの身近な女性)が相談した結果はどうでしたか。
 次の中から1つだけ選んでください。

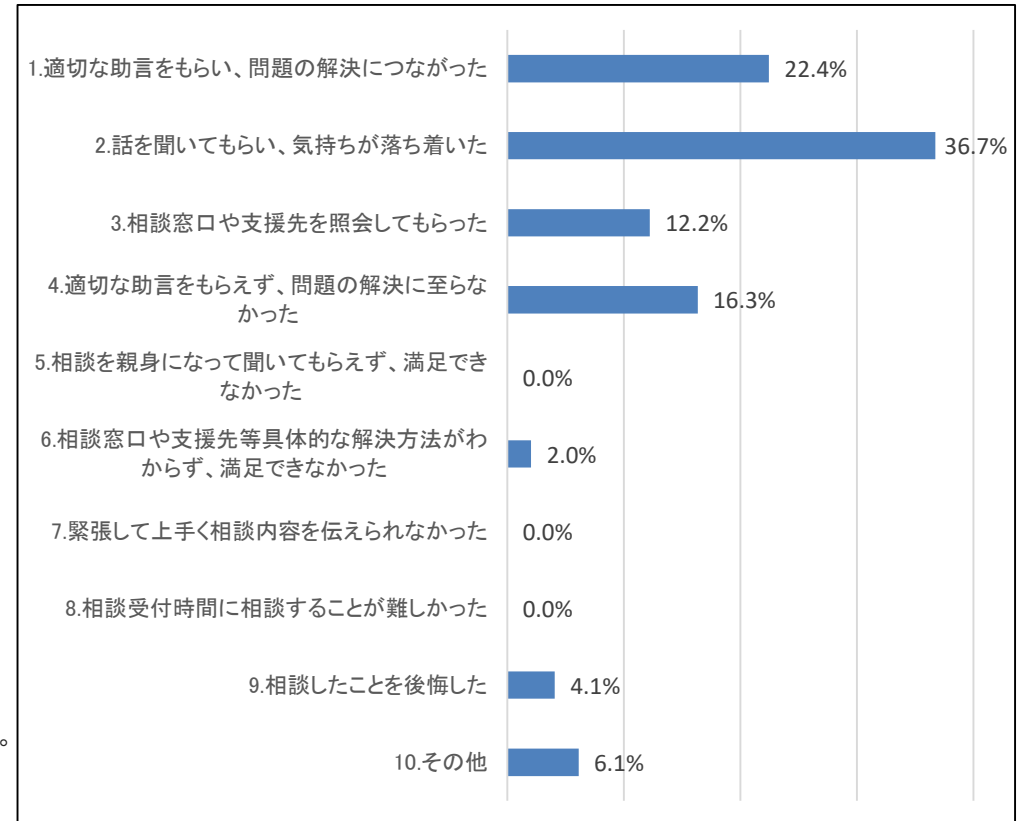
(1つ回答)

	構成比	回答数
1 適切な助言をもらい、問題の解決につながった	22.4%	11
2 話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた	36.7%	18
3 相談窓口や支援先を照会してもらった	12.2%	6
4 適切な助言をもらえず、問題の解決に至らなかった	16.3%	8
5 相談を親身になって聞いてもらえず、満足できなかった	0.0%	0
6 相談窓口や支援先等具体的な解決方法がわからず、満足できなかった	2.0%	1
7 緊張して上手く相談内容を伝えられなかった	0.0%	0
8 相談受付時間に相談することが難しかった	0.0%	0
9 相談したことを後悔した	4.1%	2
10 その他	6.1%	3

(n = 49)

【その他】

- ・ 可もなく不可もなく。
- ・ 話を聞いてはくれたがもう少し多様性を持って時間をかけて対応の仕方があると思った。



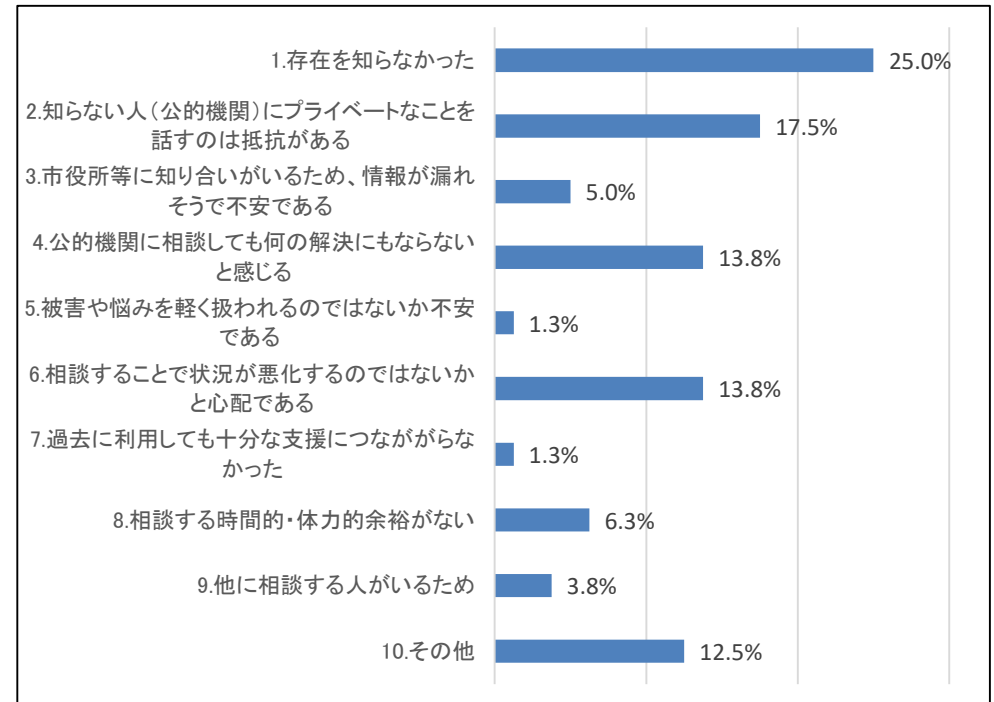
問11 (問6で選択肢2を選んだ方にお聞きします。)
 相談窓口を利用しなかったのはどうしてですか。次の中から1つだけ選んでください。
 (1つ回答)

	構成比	回答数
1 存在を知らなかった	25.0%	20
2 知らない人(公的機関)にプライベートなことを話すのは抵抗がある	17.5%	14
3 市役所等に知り合いがいるため、情報が漏れそうで不安である	5.0%	4
4 公的機関に相談しても何の解決にもならないと感じる	13.8%	11
5 被害や悩みを軽く扱われるのではないかと不安である	1.3%	1
6 相談することで状況が悪化するのではないかと心配である	13.8%	11
7 過去に利用しても十分な支援につながらなかった	1.3%	1
8 相談する時間的・体力的余裕がない	6.3%	5
9 他に相談する人がいるため	3.8%	3
10 その他	12.5%	10

(n = 80)

【その他】

- ・ 知人女性から詳細を聞いていないため不明。
- ・ 利用したかどうかわからない。
- ・ 相談したかどうかわからない。



問12 あなたは、相談機関にどのような支援を望みますか。
次の中からいくつでも選んでください。

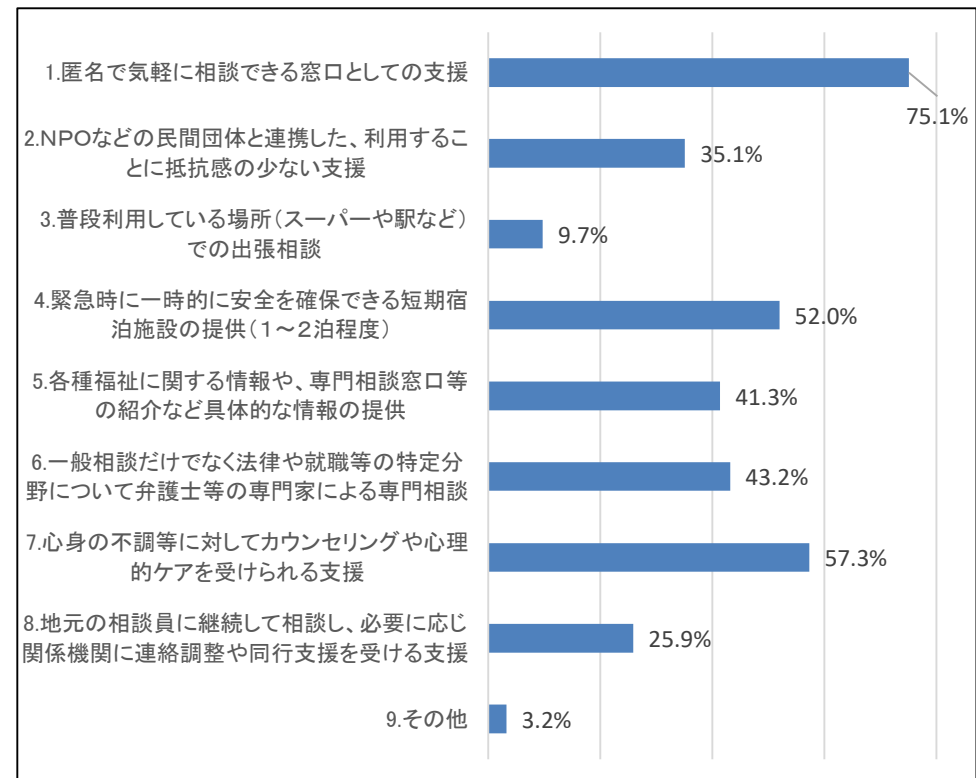
(複数回答可)

	構成比	回答数
1 匿名で気軽に相談できる窓口としての支援	75.1%	325
2 NPOなどの民間団体と連携した、利用することに抵抗感の少ない支援	35.1%	152
3 普段利用している場所(スーパーや駅など)での出張相談	9.7%	42
4 緊急時に一時的に安全を確保できる短期宿泊施設の提供(1~2泊程度)	52.0%	225
5 各種福祉に関する情報や、専門相談窓口等の紹介など具体的な情報の提供	41.3%	179
6 一般相談だけでなく法律や就職等の特定分野について弁護士等の専門家による専門相談	43.2%	187
7 心身の不調等に対してカウンセリングや心理的ケアを受けられる支援	57.3%	248
8 地元の相談員に継続して相談し、必要に応じ関係機関に連絡調整や同行支援を受ける支援	25.9%	112
9 その他	3.2%	14

(n = 433)

【その他】

- ・ 共感してくれる大人と24時間稼働の安全な居場所が必要。
- ・ 女性に限らず男性も支援できる環境。
- ・ 相談した先の事が分かりやすくなること。例えば、長中期的に保護してもらえる施設や団体への紹介など。



問13 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのようなことが効果的であると思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

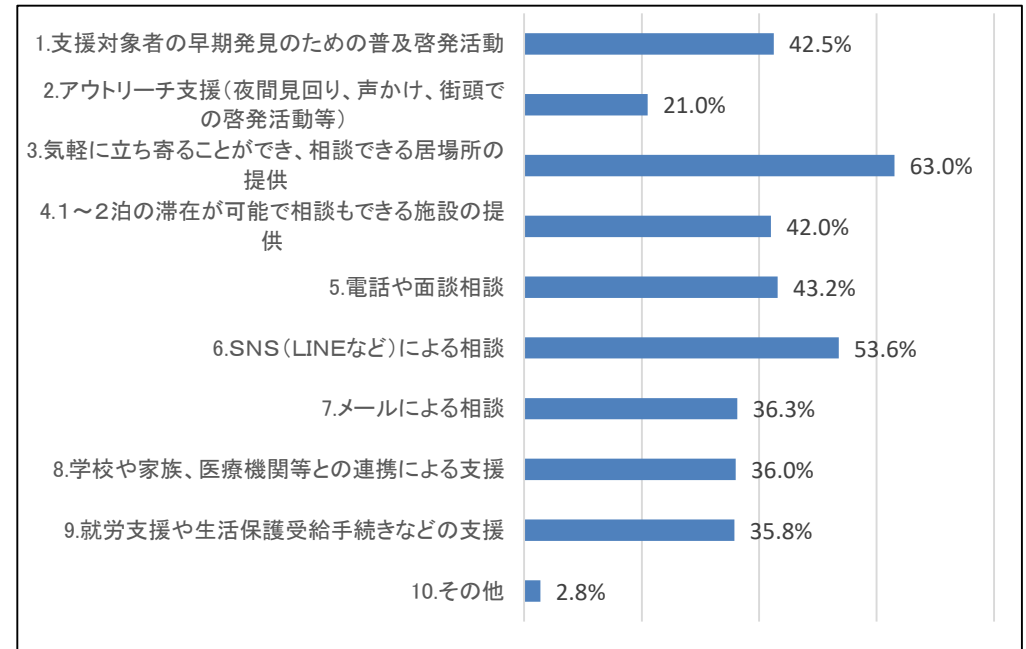
(複数回答可)

	構成比	回答数
1 支援対象者の早期発見のための普及啓発活動	42.5%	184
2 アウトリーチ支援（夜間見回り、声かけ、街頭での啓発活動等）	21.0%	91
3 気軽に立ち寄ることができ、相談できる居場所の提供	63.0%	273
4 1～2泊の滞在が可能で相談もできる施設の提供	42.0%	182
5 電話や面談相談	43.2%	187
6 SNS（LINEなど）による相談	53.6%	232
7 メールによる相談	36.3%	157
8 学校や家族、医療機関等との連携による支援	36.0%	156
9 就労支援や生活保護受給手続きなどの支援	35.8%	155
10 その他	2.8%	12

(n = 433)

【その他】

- ・ video会話や、リモートで相談できたら良い。
- ・ 夜間でも気軽に相談出来るシステム、電話でも良いしラインでも良いと思います。
- ・ 困難を生じさせない社会への教育、環境整備。



問14 県では、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」及び「DV防止法」に基づく基本計画を今年度改訂する予定です。DV被害女性を含む困難な問題を抱える女性への支援について御意見等がございましたら、自由に記載してください。

- ・ 困難な問題を抱えているのは女性だけでは無いので、全ての性別を対象にしてください。
- ・ DVに気付くことができなかつたりするので、相談というより、日常会話ができるカフェみたいなどころがあると行きやすいのではないだろうか。
- ・ 匿名でいつでも相談できる所が、もっと身近に増えると良いと思う。
- ・ DVする側(加害者)へ教育支援、カウンセリング等、再発防止に繋げて被害者が社会で安心して生活・活動出来るが良いです。
- ・ どこに相談すべきかをいろいろな方法で周知すると良いと思いました。
- ・ 継続的に安心して相談出来き、経済的に自立出来るまでの居場所作り(やりがいを感じられる職業の紹介も出来る)などが大切ではないでしょうか。
- ・ 県や国が施設を提供して、NPO法人などが運営し、県が監査出来るようなシステムがあると良いと思います。